

## 見どころ1 不遇の時代から一躍脚光を浴びた「水滸伝」シリーズ

初代歌川豊国に15歳の頃弟子入りした国芳は、画壇デビューを果たすものの、長い不遇の時代を送っていました。そんな国芳を一躍人気絵師に押し上げたのが、中国の伝奇小説「水滸伝」を題材にした『通俗水滸伝豪傑百八人一個』シリーズ。江戸に刺青ブームを巻き起こし、「武者絵の国芳」として画壇での地位を確立した国芳の出世作となりました。



うたがわ くによし

歌川国芳 (1797-1861)

つうぞくすいこでん ごうけつひやくはちにんのひとり  
ろうりはくちょうちようじゆん

通俗水滸伝豪傑百八人之壹人  
浪裡白跳張順

文政 11- 文政 12 年 (1828-1829)

『通俗水滸伝豪傑百八人之壹人』シリーズは、歌川国芳の出世作としてよく知られるもので、以後の水滸伝ブームのさきがけとなった。浪裡白跳張順は、梁山泊で水軍の頭領を務める水練の達人。本図は、水門破りの愛称で親しまれる人気作で、国芳が描く水滸伝の豪傑の中でも頂点に位置する傑作としてよく知られている。

## 見どころ2 国芳の代表作 「相馬の古内裏」

「武者絵の国芳」として知られた国芳の代表作『相馬の古内裏』は、時代を超えて見る者に強烈な印象を与える作品です。水滸伝で成功した国芳の創造性は徐々に浮世絵の範疇を超え、大判三枚続の画面いっぱいに大胆な構図を描く新たなスタイルで、当時の浮世絵界に革命を起こしました。



うたがわ くによし

歌川国芳 (1797-1861)

そうまのふるだいら

相馬の古内裏

弘化 2 年 - 弘化 3 年 (1845-1846)

本図は、山東京伝の読本「善知安方忠義伝」を題材にした国芳の代表作。相馬の古内裏とは、朝廷に反旗を翻した平将門が下総国に築いた内裏跡。将門の死後、娘の滝夜叉姫は相馬の古内裏を巢窟に徒党を組み、亡父の遺志を継ぎ朝廷に謀反を企てる。将門一派の残党狩りの為に朽ち果てた内裏に訪れた源頼信の家臣大宅太郎光国は、滝夜叉姫が妖術で召喚した巨大な骸骨と対決する。